

# 人殺しの宗教と 皆一緒の宗教

神に忠誠を誓い

自分の欲得を捨てて

命令義務を遂行するならば

罪に汚れず神の祝福へ行く



人殺しは地獄に墜ちないのか

# 神への忠誠

## バガヴァアツド・ギーター

勇者アルジュナは、敵の中に親族や師や友人を見た

彼は神に問う

王権がなんになる。享樂や生命がなんになる

そもそも、ともに繁榮を願った人々だ

**彼らが私を殺しても、私は彼らを殺したくない**

たとい天国・地獄・現世の三界の王となるためでも殺さない。いわん

やこの浮世の戦いだ。もし、彼らが、無抵抗の私を殺すならば、それ

は私にとつて幸せなことだ。彼は弓と矢を投げ捨て悲しむ

神は言う

**自分の欲望を捨てよ**

法を捨て、**戦士としての義務をはたせ**

**私に忠誠を誓え**

**私に専念せよ**

ならば人殺しも罪とならず、**永遠の生命を得る**



ギーターはこう結論づける

専心すべき神のある所、弓を執る戦士の居る所

幸運あり、勝利あり、繁栄あり、秩序あり

注1 三界とは天界・この世・地獄。人殺しをすれば業によって汚れが身に付着し死後に地獄に落ちて被害者の苦を身に受けて苦しむと考えた。三界の王となれば人殺しをしても苦海に墜ちない。アルジュナは業のカラクリや神の威信に挫けることなく、相手の痛みを知ってその故に愛して、殺されるよりも殺された方が良いという。然るに、神は人殺しを命令するのである。尚、理趣経等には「設善三界一切有情。不墮惡趣」と人殺し容認と読める記述があり、これは他国の侵入が相次ぎその防衛を急いだと弁明するが解明が急務である。その論理は国王や国家や神への忠誠ではなく主体の無自性によるというのが新機軸であるが、古今様々な理屈によって人殺しは容認されることを肝に銘じて忌避すべきである。

注2 かつて軍人は殉職すると英霊として神となり靖国神社に永遠に強制的に祭られた。

今話題の復古調といわれる自民党の憲法草案と比較する

日本国は、……天皇を戴く国家であって……。

日本国民は、国と郷土を誇りと気概を持って自ら守り、……和を尊び、家族や社会全体が互いに助け合って国家を形成する。我々は、……国を成長させる。

日本国民は、良き伝統と我々の国家を末永く子孫に継承するため……制定する。

私には、この草案とギーターが似て見える。ギーターは神を頂点とし、神の秩序を守るために、各々が奮励することを説き、個人個人の欲望を制限する。ブッダは自己の欲望を制御して他者を救えと説くが、ギーターは欲望を押さえて神に従えという。神と国家を置き換えるならば、ナシヨナリズムとはそのまま人殺しの容認宗教となるではないか。国の憲法で国の成長を声高に叫ぶも恥ずかしい。

栄華を誇るバンコク王宮



# 仏陀の声

スッタニパータ四章15経



ビルマ難民支援  
左の子は親を殺された

私は武器を取り敵をやっつけようとして恐怖にふるえた  
相手の痛みを見たのである

私だけではない。人々はみんな衝突しうめいている  
彼らもまた、本当は仲むつまじくありたいのに傷つけあっているに  
違いない

人々の闘争する様は、まるで少ない水に住む魚たちが、生きんがた  
めに無我夢中でぶつかりあう様である

私は、どこかに傷つけ合わない世界があるうかと求め歩いたが、安  
住できる場所はなかった。また、どこへ逃れても人々の苦悩の声が  
聞こえて来るのだった

その時である。私は心臓に刺さる矢を見た

その矢は目に見えないが、人々の心臓を貫き、人々を走らせる  
人々は見えない矢に無意識に飛ばされて、ぶつかりあっている

その矢を抜いたならば、

人々は右往左往せず、ぶつからず、奪わず、殺し合うことがない



ブツダの基調は人間の尊重である。時代は国家から個人へ、特に悪劣な国家や大企業から個人の幸福をいかに守るかに移行している（人間の安全保障）。ブツダや現憲法は時代を先取りする。国家主義は時代後れである。

欲望<sup>カーム</sup>を捨てよというのは、

ギーターもブツダも共通している

しかし

ギーターは神を愛し、神に従う

ブツダは、人を愛し、己<sup>おのれ</sup>に従う

ギーターは一切の欲望を捨てて神に従うが、

ブツダは、欲望を捨てて人々と和む

今日、愛国心が叫ばれるが、

愛国者は、元首や国や国益を愛し、国に従う

そのとき罪はないか、狭量<sup>排他</sup>な利己主義はないか

## 教育勅語

我が臣民はよく忠にはげみよく孝をつくし、國中のすべての者が皆心を一にして代々美風をつくりあげて来た。・・・。



汝臣民は、父母に孝行をつくし、兄弟姉妹仲よくし、夫婦互に睦み合ひ、・・・常に皇室典範並びに憲法を始め諸々の法令を尊重遵守し、

万一危急の大事が起つたならば、大義に基づいて勇気をふるい一身を捧げて皇室国家の為につくせ。

かくして神勅のまにまに天地と共に窮りなきあまつひびぎ宝祚の御業をたすけ奉れ。・・・

皇祖皇宗の子孫たる者及び臣民たる者が共々にしたがい守るべきところである。

## 憲法前文

政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

## 菩薩行仏教

他人を先に考え、自分は後回しにせよ

己が欲望を離れた者は、生きもの  
全ての幸福を願い、人々と苦しみ  
をともし、その解放を実行せよ



津波で取り残され教育を受け得ない村にお米を寄付する



私たちの寄付によって  
孤児や難民50名が生活できる  
寄宿舎が建つダウエイの浜辺

神と、己と、他者

ブツダは言う。私の死後、

迷える者は我が骨を礼拝せよ

学者は経典を読めよ

しかし有能な者は自分で考えよ

最も大事なことは自分で考える

ことである

なぜなら欲望を離れるとは正に

そのことであるからである

人を害しえなかつたこと

これこそ我が欲望であり

離欲である

世界は殺すなという

世界は戦えという

人は死にたくない

人は殺したくない

国に従え

神に従え

否

良心に従え

人の痛みに寄り添え

戦争は痛みを忘れると繰り返す

かつてインドのアショーカ王が屍の上に帝  
国を維持したとき、人々は反省し「こんな  
悲惨はこりごりだ。不殺生を破るな」と、  
仏教を国是とした

二千年後、世界大戦を経験した人々は、「自  
国のことのみに専心してはいけない、二度  
と戦禍のないように」と、不殺生戒を憲法  
に刻んだのである

戦力不保持、交戦権なしの不殺生の憲法が  
各国に勃興すれば国王や国家による人殺し  
はこの世からなくなる

悩み相談駆け込み寺  
089-977-8155

発行 松山市石手2・9・21 HP // [nehan.net](http://nehan.net)

皆一緒大師石手寺 住職加藤俊生 ☎ 089-977-0870